

CONTENT



1. 小児外傷の現状

2. 事故予防の方法論

「変えられるものを変える」

3. 現場でできること

「事故予防と発生時の対処」

教育・保育施設等における事故防止及び 事故発生時の対応のためのガイドライン

(厚生労働省：平成28年3月)

- 事故防止のための取組み～施設・事業者向け～
 - ・ 重大事故が発生しやすい場面（**睡眠中**、**プール活動**・**水遊び**、**食事中**）ごとの注意事項
 - ・ 事故防止のための研修等による体制づくり
 - ・ マニュアル、記録の整備
- 事故防止のための取組み～地方自治体向け～
 - ・ 地方自治体、施設・事業者との連携体制の整備
 - ・ 施設・事業者に対する研修や指導監査等の実施
- 事故発生時の対応～施設・事業者、地方自治体共通～
 - ・ 事故発生時の段階的な対応（事故発生直後、事故後以降、状況の記録、保護者等への対応、報道機関への対応、国への事故報告、検証の実施）

睡眠中

- 仰向けに寝かせる
- やわらかい布団やぬいぐるみを使用しない
- ひも、ひも状のものを置かない
- 口の中に異物がいないか確かめる
- 嘔吐物が口の中にないか確かめる
- 定期的に睡眠状態を点検する



プール・水遊び中

- 監視者は**監視に専念**する
- 監視エリア全域を**くまなく監視**する
- **動かない**子や**不自然な動き**の子を見つける
- 規則的に**目線を動かしながら**監視する
- 十分な監視体制が取れない場合は**活動を中止**する
- **時間的余裕**をもって行う



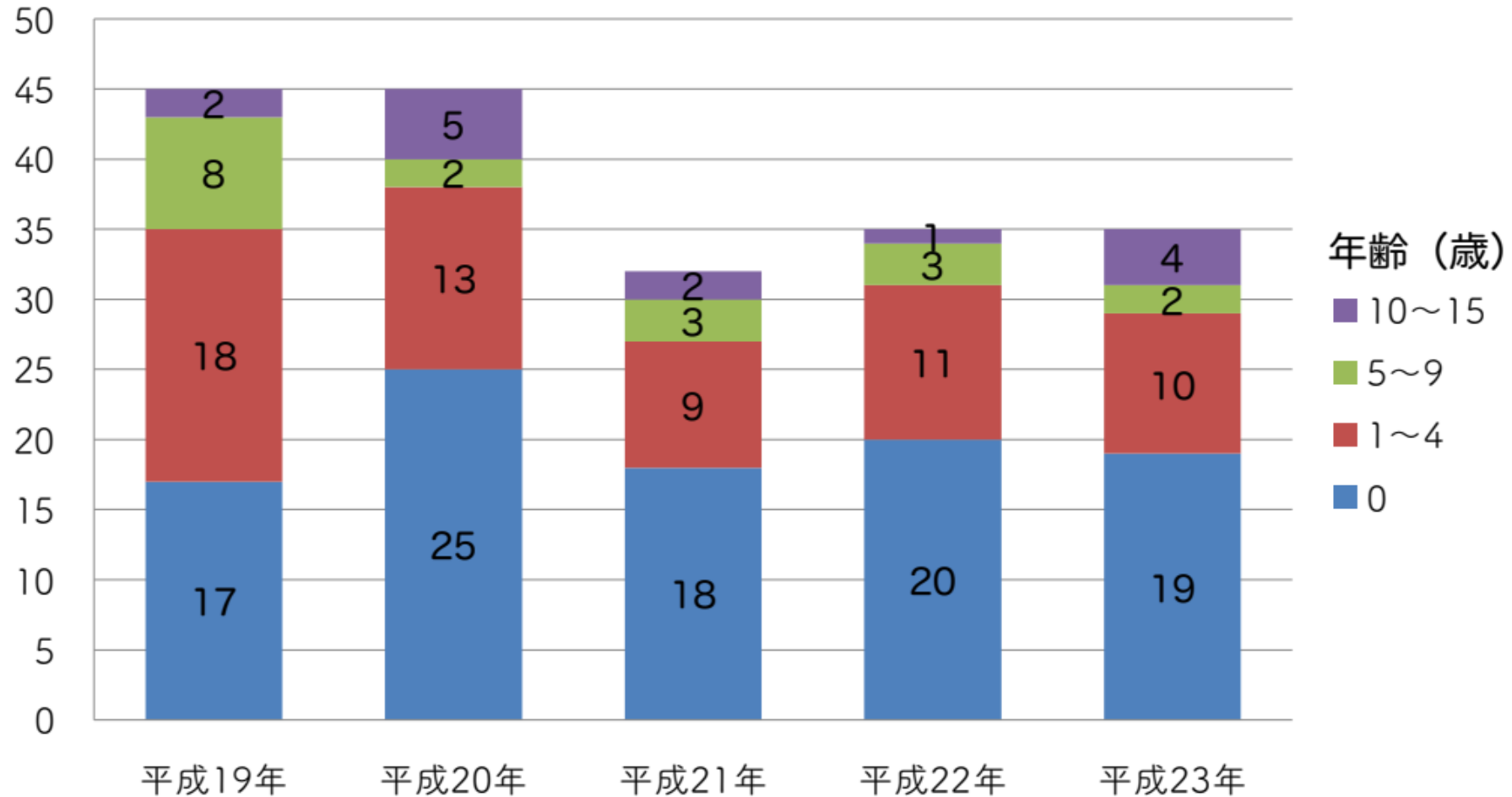
食事中

- 子どもの意志やペースにあった**タイミング**で与える
- 子どもの口に合った**量**で与える
- 食べ物を飲み込んだことを確認する
- 汁物などの**水分**を適切に与える
- **驚かせない**
- **眠くなっていないか**確認
- **正しく座っているか**注意する

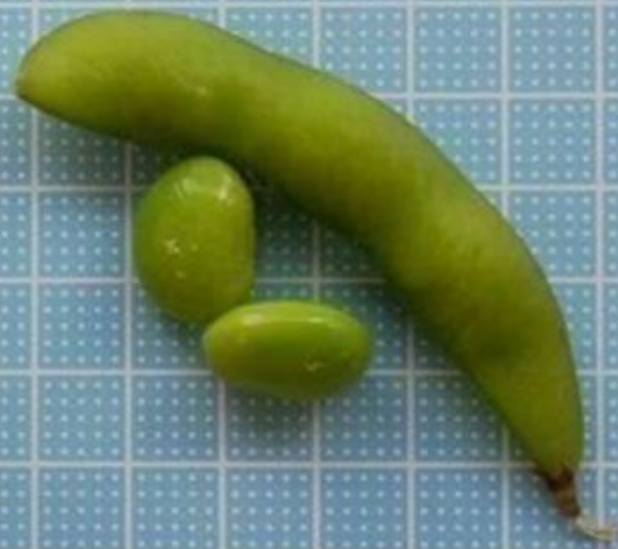


窒息の死亡者数

(人)



原因





内径 < 38mm

(誤差±1mm)



誤飲防止ルーラー

60歳未満児 誤飲・窒息防止用スケール

応急処置 心肺蘇生法

窒息がひどく、呼吸しない場合は、速やかに心肺蘇生法を実施しましょう。

最初に人工呼吸を3回、大呼吸を5回（15回）繰り返し、その後心肺蘇生法を実施しましょう。

① 胸骨圧迫 **緑** 胸骨の中央（胸骨の突起）を握り、強く押し下ろす。押し下ろす時は、肘を伸ばして肩から行う。押し下ろす力は、自分の体重の約1/3程度を目安とする。1分間に100回以上行う。

② 人工呼吸 **緑** 顔を上げて、口を密着させて人工呼吸を行う。人工呼吸は、胸骨圧迫と同時に行う。人工呼吸は、胸骨圧迫と同時に行う。人工呼吸は、胸骨圧迫と同時に行う。

③ 心肺蘇生法 **赤** 胸骨圧迫と人工呼吸を同時に行う。胸骨圧迫は、1分間に100回以上行う。人工呼吸は、胸骨圧迫と同時に行う。人工呼吸は、胸骨圧迫と同時に行う。

この円形の中に入るものは赤ちゃんの口に入ります

この円形の中に入るものは赤ちゃんの口に入ります

誤飲防止ルーラー

60歳未満児 誤飲・窒息防止用スケール

2つの円形に入るものは深さから1cmの長さに剪きましょう

① 誤飲防止ルーラーの先端を赤ちゃんの口の中に入れて、奥まで押し込みます。このルーラーは赤ちゃんの口の中（舌の奥）に固定するため、誤飲防止の目安として、赤ちゃんの口の奥まで押し込みます。

② 誤飲防止ルーラーの先端を赤ちゃんの口の中に入れて、奥まで押し込みます。このルーラーは赤ちゃんの口の中（舌の奥）に固定するため、誤飲防止の目安として、赤ちゃんの口の奥まで押し込みます。

この円形の中に入るものは、赤ちゃんの口に入ります。剪断する際の長さを確認してください。

この円形の中に入るものは、赤ちゃんの口に入ります。剪断する際の長さを確認してください。



窒息の対応（意識あり）

背部叩打法

背中を平手で強く4～5回たたく。

<乳児の場合>



<少し大きい子の場合>



窒息の対応（意識あり）

ハイムリッジ法（1歳以上の子どもの場合）

コブシをお腹の
胃のあたりに当て、
上後ろ方向へすばやく
強く引き上げる。



窒息の対応（意識なし）



誤飲・誤食 屋内

原則：**催吐**

水・牛乳
コップ1杯程度



例外

誤飲したもの	対応のポイント
農薬、殺鼠剤、 殺虫剤、防虫剤	脂溶性なので牛乳を飲ませてはいけません。
除光液・灯油・ ガソリン・ベンジン 等の揮発性物質	吐いたものが気管に入り肺炎などを起こすので吐かせないでください。何も飲ませず小児救急対応医療機関を受診してください。
トイレ用洗剤・ 漂白剤等の強酸・ 強アルカリ	牛乳や卵白を飲ませてください。無理に吐かせようとする、食道などの粘膜を再び痛めるので吐かせないで、小児救急対応医療機関を受診してください。
大部分の医薬品等	水や牛乳を飲ませて、のどの奥を刺激してすぐに吐かせてください。
パラジクロルベンゼン・ ナフタリン・ 防虫剤等	防虫剤等は油に溶けやすく、牛乳を飲ませると毒物の吸収を早めるため、牛乳は飲ませないでください。吐かせてください。
タバコ	原則として何も飲ませず、吐かせてください。
安全ピン、ガラス片、 針、画びょう等	吐かせないで、小児救急対応医療機関を受診してください。

誤飲・誤食 屋外

原則：**催吐**

水・牛乳
コップ1杯程度



毒 有毒植物に要注意

山菜狩りなどで誤って有毒な野草を採取し、食べたことにより、**食中毒**が発生しています。
有毒植物による食中毒で、**死者も発生**しています。

植物名	間違えやすい植物の例（「自然毒のリスクプロファイル」より）	事件数	患者数	死亡数
スイセン	ニラ、ノビル、タマネギ	62	207	1
ジャガイモ	※親手で発芽しなかったイモ、光に当たって皮がうすい黄緑～緑色になったイモの表面の部分、芽が出てきたイモの芽及び付け根部分などは食べない。	18	285	0
チョウセンアサガオ	ゴボウ、オクラ、モロヘイヤ、アシタバ、ゴマ	13	36	0
バイケイソウ	オオバギボウシ、ギョウジャニンニク	18	40	0
クワズイモ	サトイモ	17	40	0
イヌサフラン	ギボウシ、ギョウジャニンニク、ジャガイモ、タマネギ	17	24	10
トリカブト	ニリンソウ、モミジガサ	9	17	3
コバイケイソウ	オオバギボウシ、ギョウジャニンニク	4	9	0
ヨウシュヤマゴボウ	ヤマゴボウ	4	4	0
観賞用ヒヨウタン	ヒヨウタン	3	20	0
ハシリドコロ	フキノトウ、ギボウシ	3	8	0
キダチタバコ	カラシナ、カラシ	1	3	0
ユウガオ	ヒヨウタン、※まれに高ククルピタシン含量のユウガオによる中毒もある。苦みの強いものは摂食しない方がよい。	3	9	0
スノーフレーク	ニラ	2	5	0
ヒガンバナ	ニラ、ノビル、タマネギ	1	2	0
タガラシ	セリ	1	1	0
その他（タマスタレ、ヒメザゼンソウ等）		9	58	0
不明		5	25	0
合計		190	793	14

誤飲・誤食 屋外

毒 有毒植物に要注意

山菜狩りなどで誤って有毒な野草を採取し、食べたことにより、**食中毒**が発生しています。
有毒植物による食中毒で、**死者も発生**しています。

植物名	間違えやすい植物の例（「 自然毒のリスクプロファイル 」より）	事件数	患者数	死亡数
スイセン	ニラ、ノビル、タマネギ	62	207	1
	※親手で発芽しなかったイモ、光に当たって皮がうすい黄緑			

食用の野草と確実に判断できない植物は

絶対に

採らない! 食べない!

売らない! 人にあげない!

- ⚠ 家庭菜園や畑などで、野菜と観賞植物を一緒に栽培するのはやめましょう。
- ⚠ 山菜に混じって有毒植物が生えていることがあります。山菜狩りなどをするとき、一本一本よく確認して採り、調理前にもう一度確認しましょう。



ヒガンバナ	ニラ、ノビル、タマネギ	1	2	0
タガラシ	セリ	1	1	0
その他（ タマスタレ 、 ヒメザゼンソウ 等）		9	58	0
不明		5	25	0
合計		190	793	14

乳幼児熱傷の実態

- 2010/3/1-2011/10/31 (20か月)
- 5歳未満の乳幼児 313例
- 温熱熱傷 (固体/液体/気体)
化学熱傷、電撃傷、放射線熱傷

熱傷の原因

熱湯	57
味噌汁	37
コーヒー・紅茶・日本茶	33
スープ	17
カップめん	14
その他	28

加熱液体	186
加熱固体	90
加熱気体	32
その他	5
：その他の内訳	
・放射線熱傷	3
・化学熱傷	1
・電撃症	1

花火	18	たばこ	2
アイロン	17	線香	1
加熱食物	9	ろうそく	1
ホットプレート	7	炊飯器の釜	1
ストーブ	7	ヘアアイロン	1
電球	6	蚊取り線香	1
グリル	4	湯たんぽ	1
フライパン	3	帯熱食器	1
鉄板	3	炭	1
トースター	3	コンクリート	1
帯熱金属	2		

炊飯器の蒸気	20
ファンヒーターの熱風	6
ホームベーカリーの蒸気	2
バイクのマフラーの排気ガス	1
加湿器の蒸気	1
湯沸かし器の蒸気	1
ガス台の蒸気	1

A Parent and Caregiver Guide to

Burn Safety



Each year, more than 100,000 children 14 and under are treated for fire and burn injuries.* The leading causes of burn injuries in young children are hot liquids and steam.

Your house is full of common things that can burn your child. Here are some easy steps that can help prevent burn injuries.

Safety devices such as cabinet locks, anti-scald devices and electrical outlet covers can be bought at home improvement stores.

For more information, contact
Safe Kids USA
202-662-0600
www.safekids.org

Safe Kids USA
1301 Pennsylvania Avenue, NW
Suite 1000
Washington, DC 20004

* National Vital Statistics System, 2001 to 2005 nonfatal data.
Hyattsville (MD): National Center for Health Statistics, 2007.

Proud Program Sponsor
United States Fire Administration



Reduce water temperature

- Set the hot water heater to 120 degrees. If you rent, ask your landlord to do it.



- Consider putting anti-scald devices on faucets. A child's skin burns at lower temperatures and more quickly than adult skin.



Childproof outlets

- Place covers over open electrical outlets. Children can insert metal objects (forks or keys) into outlets, causing electrical burns.



Remove items that burn

- Teach your child to never touch matches or lighters. Store these items in locked cabinets and do not use these items for fun — children can imitate you.
- Keep children away from candles and other open flames.
- Unplug irons and curling irons when not in use. Store them out of a child's reach.
- Keep cords out of your children's reach.



Establish a "Kid-Free Zone"

- Make the stove area a "Kid-Free Zone" (3 feet is a good distance). Mark it on the floor with bright tape.
- Never leave your child alone in the kitchen.
- Do not hold children while cooking or while carrying hot foods or liquids.



Test food and drink temperature

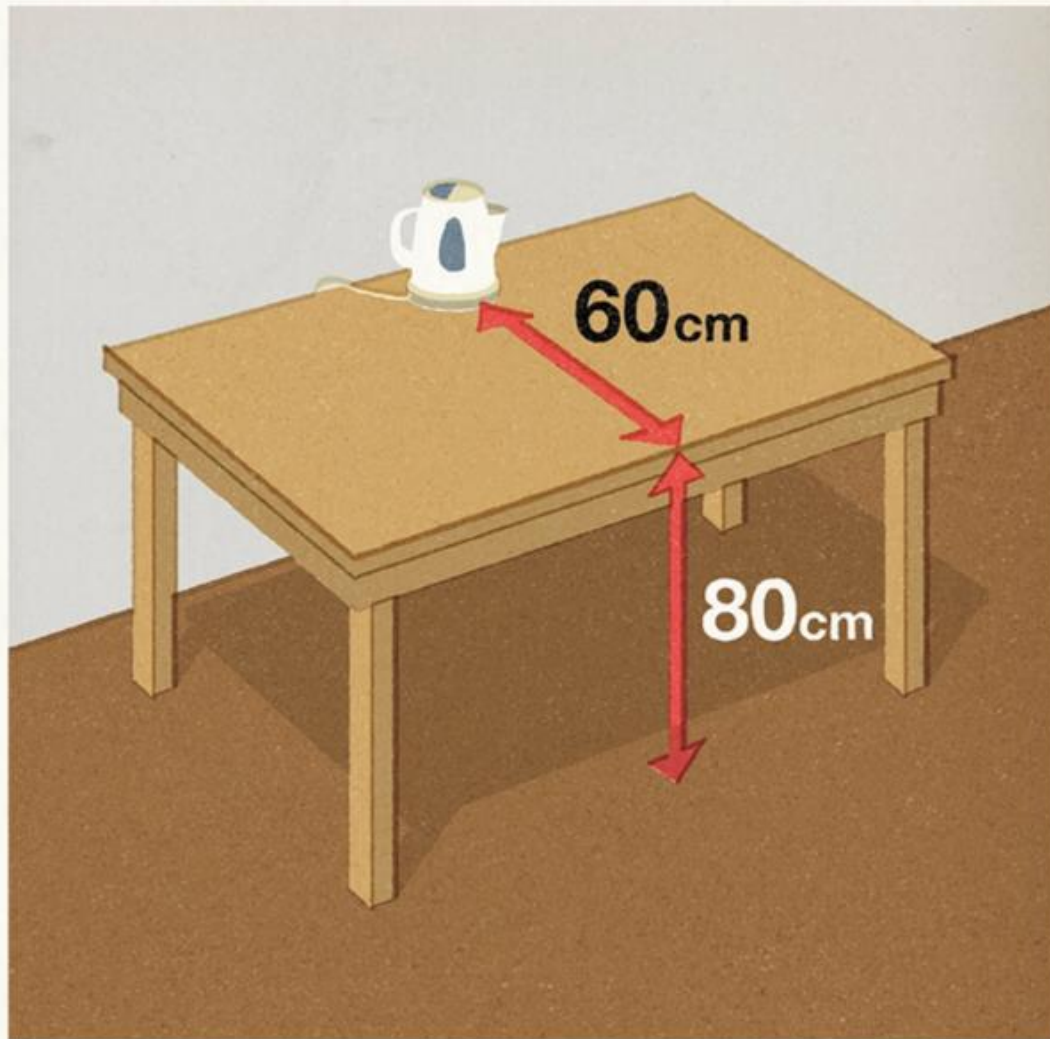
- Taste cooked food and heated liquids to make sure they're not too hot.
- Never microwave a baby's bottle. Drinks heated in a microwave may be much hotter than their containers.
- Heat bottles with warm water and test before feeding.



Avoid hot spills

- Cook with pots and pans on back burners and turn handles away from the front.
- Keep appliance cords (i.e. coffee pot, deep fryer) out of a child's reach.
- Remove tablecloths from tables.
- Do not place hot foods or liquids near the counter or table's edge.





【予防法】

電気ケトルは必ず湯漏れ防止機能付き

安全対策がされていない電気ケトルを倒してしまうと、10秒もしないうちにひどいやけどをしてしまいます。

電気ケトルを使用する場合は、必ず湯漏れ防止機能付きの製品を使用してください。

また、コードに足を引っ掛けて転倒させる事故も多発していますので、80cm以上の高い位置にあるコンセントにつなぎましょう。

乳幼児のいる家庭では、熱源は台所に集め、台所に立ち入らせないようにしましょう。

熱傷の対応

まず

冷却

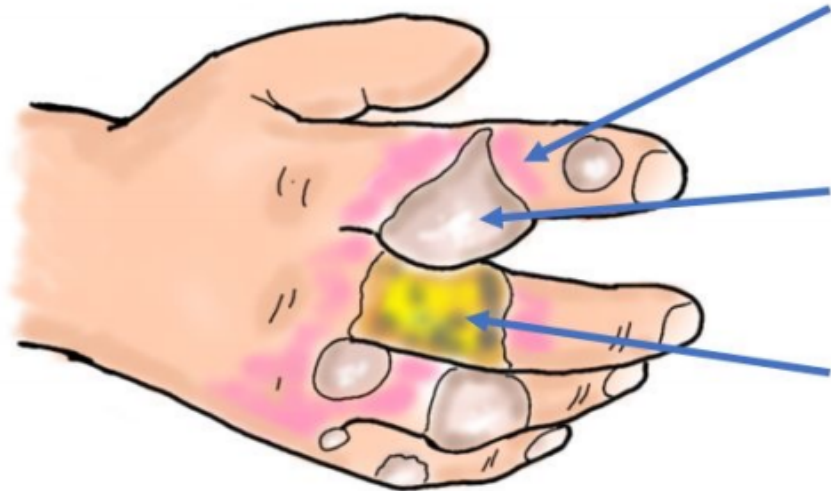
流水で

15~20分

※着衣の上からの熱傷は、無理に脱衣しない

熱傷の対応

冷却後



I度 (赤みのみ)
→ 1晩様子をみてから受診でも可

II度
(水疱形成)
→ 速やかに受診

III度
(黄色・白色)

成人の手のひらより大きな熱傷
顔色不良・ぐったりなど → 救急要請

熱傷の対応

やけど(火傷・熱傷)をしたとき

- 指先だけなど、やけどの範囲がお子さんの手のひらより狭い
- 赤くなっただけで水ぶくれがない

※やけどをした部分をよく冷やしてください。



一晩家で様子を見て医療機関の診察時間になってから受診してもかまいません。

- やけどの範囲がお子さんの手のひらより広い
- 顔、手足の関節部分、外陰部のやけど
- やけどの部分が白くなったり、または黒くなっている
- やけどの重症度の判断がわからない

※水ぶくれができていてもつぶさずに、水道水や氷水で冷やしながら、受診してください。



小児救急対応医療機関を受診

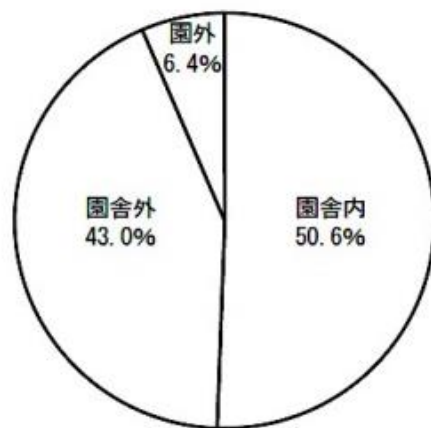
- やけどの範囲が大人の手のひらより大きいとき
- やけどの部分が黒くなっていたり、白くなっている
- やけどでショック状態になっている

※皮膚に衣服がついていても、無理に衣服を剥がさずに水道水や氷水で冷やしてください。



救急車を呼ぶ

打撲・打ち身・骨折

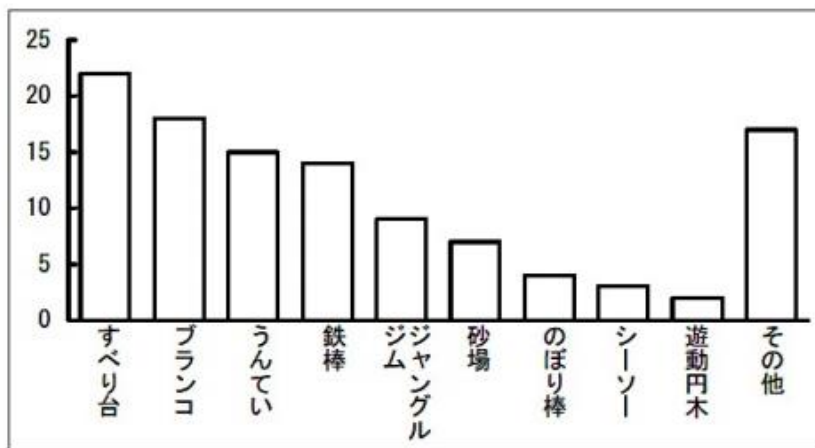
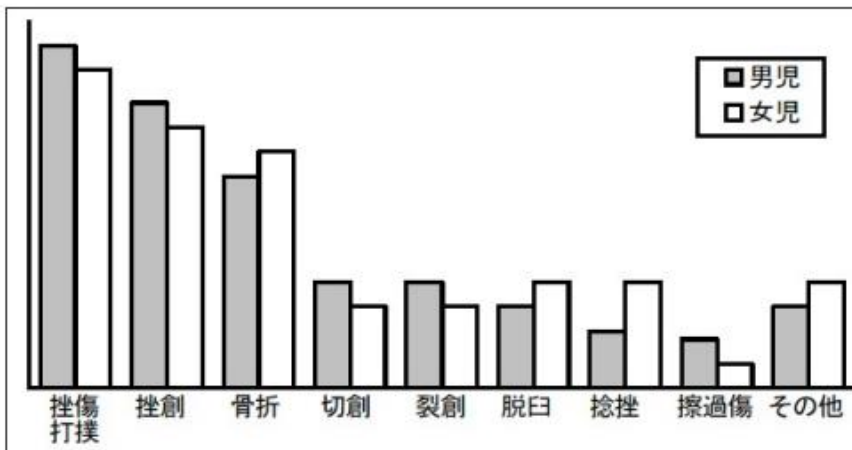


〈園舎内で事故の多い場所〉

- 第1位 保育室
- 第2位 遊戯室・講堂
- 第3位 廊下
- 第4位 階段
- 第5位 ベランダ

〈園舎外で事故の多い場所〉

- 第1位 運動場
- 第2位 体育・遊戯施設



完全な事故予防
は
不可能

頭部打撲



- ほとんど**軽症**
- めったに頭蓋内損傷は**ない**

頭をうったとき (頭部打撲)

- すぐに大きな声で泣いた、その後食欲もある、動き回っている
- 大きなたんこぶができた
- 意識がしっかりしている
- 吐いたり、他の症状がない



一晩家で様子を見て医療機関の診察時間になってから受診してもかまいません。

- 意識がしっかりしているかどうか判断できない
- 不機嫌な状態が続く
- 吐き気が続く、吐く、食欲がまったくない
- 頭をすごく痛がる
- 手足の動き方がいつもと違いおかしい
- 打った部分がへこんでいる
- 傷口からの出血が止まらない

※頭部以外の打撲にも注意してください。



小児救急対応医療機関を受診

- うとうとしたり、意識がない(すぐに泣かないなど)
- けいれんがある
- 呼吸状態がおかしい
- 傷口からの出血がひどい

※できるだけ体を動かさないようにして、救急車を待ちましょう。



救急車を呼ぶ

すぐ泣いた
意識が普段どおり
経口摂取可能



様子みてOK

うとうと・不機嫌
繰り返す嘔吐
頭痛
立てない・転ぶ



病院受診

四肢打撲

骨折・脱臼を疑って対応

まずはRICE

R Rest
安静

I Icing
冷却



C 压迫
Compression

E 抬高
Elevation

四肢打撲

骨折・脱臼を疑って対応

- ✓ 痛みが強く動かさない
- ✓ 骨の動揺・変形
- ✓ 腫脹の増大
- ✓ 1週間経過した後も疼痛持続



医療機関受診を

虫刺症（ハチ、マダニ）



予防

虫よけ

主成分：ディート



- 年齢制限あり
- 30%濃度のものは6~8時間有効
- 6か月未満の乳児は使用不可
- 6か月~2歳未満は、1日1回。
- 2歳~12歳未満は、1日1~3回。

主成分：イカリジン

- 年齢制限・塗り回数制限がない
- イカリジン15%濃度のものは6~8時間有効



顔や目ほけ止めを使っている場合、その上におよけを塗ろう。

清潔に

汗をふく

汗は虫刺されの防止を悪化させます。汗はこまめに拭き取り、シャワーを浴びましょう。



つめを切る

虫刺されは剥き出しと思くなり、とびしの原因にもなるので子どもの爪の手入れも念入り!



服装

ハチの巣に近づかない



薄手の長ズボンでシャツ靴下などを着て手足を露出しない

野山に入るときはシャツの裾はズボンに入れズボンの裾に靴下をかぶせる



- 白っぽい服
- ✗ 花模様のある服や黒い服を避ける



ハチを追い払う行動(殺虫剤やスプレー)は興奮させるのでしない



むやみにヤブに入らない





特に注意! 5~10月 特に8月

刺された直後から数時間以内に赤みや腫れ、痛みが出ます。数日でよくなります。

教日

はりがのこころもしれないので石けんで洗おう。



予防

- ▶ ハチの巣に近づかない
- ▶ 不必要に藪の中に入らない
- ▶ ハチを追い払おうとして刺激しない
- ▶ 白っぽい服を着て、花模様のある服や黒い服を避ける



アナフィラキシーに注意!



以前ハチに刺されたことのある人が再度同種のハチに刺されるとショックを起こすことがあり、アナフィラキシーといわれます。

初めて刺された時に起こることもあり、刺されて30分以内におこることが多いです。

刺されたあとで吐き気、めまい、じんましん、息苦しいなど症状がある場合は、座って休むのではなく、周囲の人に相談してすぐに病院に行ってください。

1回アナフィラキシーをおこしたり、刺された部分の反応が異常に強い場合は、次に刺された時にアナフィラキシーをおこすリスクが高いです。

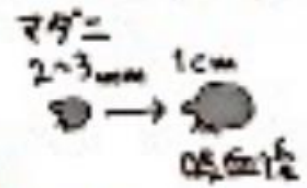
これらの場合はエピネアリン自己注射用キット(エピペン)を処方してもらった方があります。

スズメバチは集団で攻撃してくるので、一度にたくさんの場所を刺されると誰でもアナフィラキシーショックをおこすことがあります。





春～初夏・秋



ともに野山に生息するダニの一種。
 床や褥などが出る山や民家の裏山、畑、おせ道にも。
 命にも関わる重い病気を引き起こすことがあり、
 注意が必要。教習間は体調の変化に注意。
 ツツガムシは非常に小さく、刺されても分かりません。
 野山に出かけて1～2週間以内に
 高熱、全身の発疹が出た場合には病院へ。
 (刺し口があると診断がつかずやがて気が付かなくなることがあります)

ツツガムシは
刺されても
判らない

病院へGo!!

マダニは
取り除かず
皮膚科へ!

教習間は注意



予防

- ▶ むやみに藪の中に入らない
- ▶ 野山に入るときは肌の露出を少なく
- ▶ マダニが分かりやすいよう白っぽい服装
- ▶ 現場と入浴時にダニチェック
- ▶ 虫よけを使う (ただしツツガムシにはディートのみ効果あり)



咬傷（哺乳類、ヘビ）



咬傷（哺乳類、へび）

	犬	猫	ヒト
数	1位	2位	3位
感染率	20%	40%	30%

高頻度で感染 → ほっとけない

咬傷（哺乳類、ヘビ）

初期対応

1. 石鹼（ハンドソープ）と微温湯で洗浄
2. 清潔なガーゼ（きれいなタオル・ハンカチも可）で拭いて覆う
3. 病院受診

咬傷（哺乳類、ヘビ）

	マムシ	ヤマカガシ
生息地	九州以北	九州以北 北海道以外
遭遇場所	草むら	水田・川周辺
特徴	夏に 攻撃性UP	おとなしい

咬傷（哺乳類、ヘビ）

ヤマカガシ

有毒

昼行性



まるっこいかおつき
体に赤と黒のはんてんがある
森やみずべによくいる

70~150cm



くびからにがいどくをだして
てきをおいはらう。

ニホンマムシ

有毒

夜行性



さんかくけいのあたまで
いかめしいかおつき
首がほそく、ずんぐりむっくり
体にぜにがたのものもようがある
しぜんのゆたかなばしょにすむ

40~60cm



ビット器官でせきがいせんを見る！
夜でもエサを見つけられるぞ

咬傷（哺乳類、ヘビ）

初期対応

1. 傷を心臓より低い位置に保持
2. 清潔なガーゼ（きれいなタオル・ハンカチも可）で傷口を縛る。
3. 病院受診